

【第11回ゲスト】

三角 修氏 上

熊本県JA菊池代表理事組合長

「インタビュートマトーム」

龍谷大学農学部教授

表題の「未来永劫」きくちのまんま」は、JA菊池の統一理念。この理念のもと「今こそ知恵を、今こそ汗を、今こそ夢を」なる経営方針を掲げている。教育を柱とする農協運動は、人間尊重、協同の理念、農業の社会的責任、自然との共生、の四原則に基づいている。

けでなく、一般住民にも亡くなられた方はおりませんでした。作物被害は少なかつたのですが、配水管の破損で水が止まり、カスミソウが枯れかかったりしました。水も濁りました。この濁りで酪農家はパイプラインの洗浄ができなくなり、一五日間も生乳を捨て続けた方もあります。搾った乳を捨てなくてはいけない、こんなつらいことはありません。

石田 多くの組合員さんが被災されましたね。

三角 そうなんです。農業施設や圃場のひび割れ、用水路の崩壊などの被害がでています。そのようななか、全国の皆さまからたいへん多くの支援物資や支援金などをいただき、たいへん感謝しています。それにもまして、全国のJAグループから数百名の人的支援を受け本場にありがたく思っています。また、迅速な共済金の支払いなど、組合員もたいへん喜んでいきます。

みらい さいごう

未来永劫

「きくちのまんま」

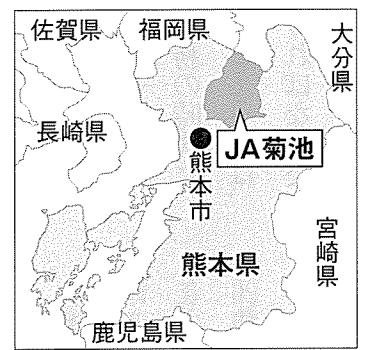
「えこめ牛」に命をかけて

石田 昨年は熊本地震に見舞われました。当時のJAの対応を教えてください。

三角 台風が来た時と同じなのですが、朝いちばん、ここに部長、

に集まれと指示を出しました。

まずは安否確認、次いで住宅や牛舎などの被害状況をチェックさせました。安否確認のなかには食べ物や飲み物の確保状況も含まれています。幸い菊池では組合員だ



石田 JA施設ではカントリーが被害に遭ったとか。

三角 大津で二つ、菊陽で一つ、合計三つのカントリーが被害を受けました。そのうち大津の一つを修理して、対処しようと考えています。この二地区では主食用米から飼料米やホールクロップサイレージへの転換が進んでいますので、一つだけでも間に合います。菊池は耕畜連携が盛んなので、飼料米はいくら作っても余るということはありません。

石田 そのおコメを食べた牛が「えこめ牛」ということですね。

三角 消費者に食べ物の話をする時、わたしは好んで水の話をしています。「コメでも野菜でも肉でも、外国から農産物を買うことは水を輸入することと同じです。輸入もので食を賄えば、菊池、旭志、阿蘇の水田は要らない。水田に貯める水も要らないということになります。そうすると熊本市民の飲み水となる地下水も減ってしまい、日本一おいしい水は飲めなくなり

カスミソウに命をかけて

石田 「えこめ牛」はホルスタインの雄の肥育ですね。

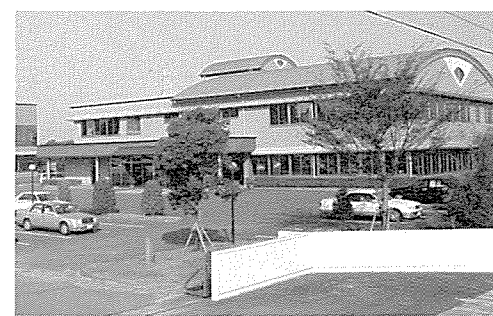
三角 そうですが、今、その素牛がいなくなっています。雌雄判別精液が出てきたので、雄がいなく

ますよ」と話しています。そうすると、「それはそうだよね」という顔付きになります。食べ物の話では通じなくても、水の話となると効果てきめんです。副組合長になった時から、熊本水財団に入り、こんな話をしながら「えこめ牛」のPRをしています。

石田 ということは、本体の酪農自体が危うくなっている…。

三角 後継牛を北海道から入れると運賃込みで一〇万円もします。そういう状況ですが、「えこめ牛」も世間に知られるようになっていきますので、現在の一六〇〇頭規模を死守したいと考えています。

石田 「えこめ牛」は県内消費が多いのですか？



JA菊池 (菊池地域農業協同組合)

組織の概況(平成28年3月末日)

組合員数.....13,511人
(正組合員7,911人 准組合員5,600人)

役員数.....38人(うち常勤4人)

職員数.....600人(うち正職員436人)

地域と農業の概況

菊池地域は熊本県の北東部に位置し、東部・北部は、阿蘇外輪山系を有する中山間地、西部・南部は菊池川、白川流域に広がる台地、平野部となっている。年平均気温は約16度、年平均降雨量は約2,055ミリで比較的温暖であるが、夏は暑く、冬は冷え込みが強い盆地型気候となっている。菊池川流域を中心とする菊池・七城の水田地帯、旭志・泗水を中心に畜産地帯、大津・菊陽における露地野菜、合志・西合志を中心に施設園芸とさまざまな農畜産物を生産している。

JAのデータ(平成28年3月末日)

設立 平成元年4月1日

本所所在地 〒869-1205 熊本県菊池市旭志川辺1875

出資金.....39億円

販売品販売額.....278億円

購買品供給額.....170億円

貯金残高.....1,181億円

貸出残高.....442億円

長期共済保有.....4,521億円



みすみ・おさむ

1953年熊本県菊池市生まれ。東京農業大学卒業後、1975年カネコ種苗(株)に入社、1981年就農、2000年JA菊池花き部会長、2002年同非常勤理事、2008年同代表理事副組合長を経て、2014年同代表理事組合長に就任、現在に至る。2003年東京農業大学経営者賞受賞。

平成十四年に非常勤理事に推挙され、二十二年に副組合長に就任してから面積を減らしました。青壮年部活動を目いっぱいやる、それも地域部会だけではなく、専門部会の活動を軌道に乗せる。これがわたしの活動の中心でした。今それが

は、将来を担う後継者がたくさん入っていました。和歌山県に八〇〇本、菊池に一人一〇〇本ずつの七〇〇本の苗が植えられたのが日本での栽培の始まりと聞いています。カスミノウの生育には適温はどれくらいか、日長時間、肥料水分はどれくらいが望ましいかなど、学術的にも確立されていませんでした。ということで青壮年部のなかに花き研究会を四人で発足させ数字を集めました。その数字をもとに、母の日や正月、お彼岸前に出荷するにはどうしたらよい

か手探りで勉強したのです。石田 それが青壮年部主催の九州大会での発表につながった。三角 それは花き研究会を作る前の話です。営農指導員から「発表しては」というお話が来て、参加させてもらいました。幸い県代表に選ばれ、九州大会に出ることになりました。三十一歳の時です。当時の九州地区委員長が本JAの上村幸男会長です。会長から謹んで賞状を受け取りました。何しろ雲の上の存在でしたからね。

三角 一部、福岡、東京にも出ていますが、基本は県内です。
石田 頭数的には「えこめ牛」よりも和牛のほうが多いのでは？
三角 断然多いです。肉牛は菊池から年間に一万一六〇〇頭が出荷されますが、そのうち黒牛が四八%、F1が三一%、えこめ牛が一五%、赤牛が六%という出荷構成です。
石田 わたしは六八歳ですが、和牛の霜降り肉はあまり食べられない。お腹がもたれます。柔らかい赤身のほうがよい。超高齢社会を迎えて全国的にもそんな傾向が出ているのではないのでしょうか。
三角 そこを見ていられるのでしょうか。全国チェーンの某ピアレストランでは「あか牛の巨塩焼き」がナンバーワン・メニューとなっています。この会社はたいへんまじめで、産地を知りたいと菊池にやってきましたが、自ら作業着を持ってきて飼養体験をしています。お客さんに説明するには、生産現場の

を固くしなければなりません。固くするポイントは「水やり」です。ぎりぎりまで水をやらない。飢餓状態に追い込んで、一〇秒とか二〇秒とか、水をやる。カスミノウの原産地は地中海ですからね。ただし切った後は水を十分にやる。切った後ならば枝が柔らかくなることはありません。
石田 当時の栽培面積は？
三角 パイプハウスで一ヘクターくらい。お金が取れるのが楽しくてね。一〇アール三〇〇万円。
石田 今から考えると、そのころは花きのバブル期ですよ。カスミノウは主役ではないが、なくては

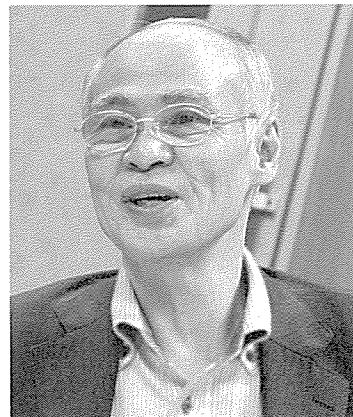
ならない名脇役ですからね。
三角 そんなわけで、平成十四年には、全国カスミノウサミットin菊池」を開催しました。当時は花き研究会が花き部会になっていて、その主催です。開催に当たっては和歌山、静岡、長野などの農協にぜひぶん通いました。残念ながら、サミットは六回、熊本、福島、和歌山、北海道、静岡、高知と回って終了となりました。開催するにはお金がかかりますからね。
石田 栽培は今も続けておられますか？
三角 今は以前の二割程度です。平成十四年に非常勤理事に推挙され、二十二年に副組合長に就任してから面積を減らしました。青壮年部活動を目いっぱいやる、それも地域部会だけではなく、専門部会の活動を軌道に乗せる。これがわたしの活動の中心でした。今それが

後継者育成に命をかけて
石田 当時、上村会長は別の農協でしたよね。
三角 会長が菊陽町農協、わたしが菊池市農協です。四人で始めた花き研究会ですが、平成に入ってからぐんぐんと伸びて、最盛期の平成六、七年ころには四〇数名となりました。若い人は皆、花き研究会に入ったものです。
石田 そのころかな、平成六年、

JA
バランスのとれた農業
三角組合長の口からは、「わがJAは」ではなく、「菊池は」という言葉が頻繁に出てくる。JAをいう以前に、わが地域、菊池郡市への思いが先行しているからだ。農協名も「菊池地域農業協同組合」となっている。菊池地域の農業の特徴は「バランスのとれた農業」。耕種、畜産、園芸がハイレベルでバランスしている。「耕畜連携」の先進地帯でもある。飼料米を使った肉牛生産と、畜ふんをペレット堆肥化し、田畑に戻している。今、こうした形の耕畜連携を日本農業の標準とすることが求められている。
来年からコメの生産調整が廃止され、「自主的な生産調整」に移行する。国が情報提供する需給動向に見合う生産とするには、それに足る水田活用交付金の堅持こそが重要だ。
(石田正昭)

入られていました。和歌山県に八〇〇本、菊池に一人一〇〇本ずつの七〇〇本の苗が植えられたのが日本での栽培の始まりと聞いています。カスミノウの生育には適温はどれくらいか、日長時間、肥料水分はどれくらいが望ましいかなど、学術的にも確立されていませんでした。ということで青壮年部のなかに花き研究会を四人で発足させ数字を集めました。その数字をもとに、母の日や正月、お彼岸前に出荷するにはどうしたらよい

後継者育成に命をかけて
石田 当時、上村会長は別の農協でしたよね。
三角 会長が菊陽町農協、わたしが菊池市農協です。四人で始めた花き研究会ですが、平成に入ってからぐんぐんと伸びて、最盛期の平成六、七年ころには四〇数名となりました。若い人は皆、花き研究会に入ったものです。
石田 そのころかな、平成六年、

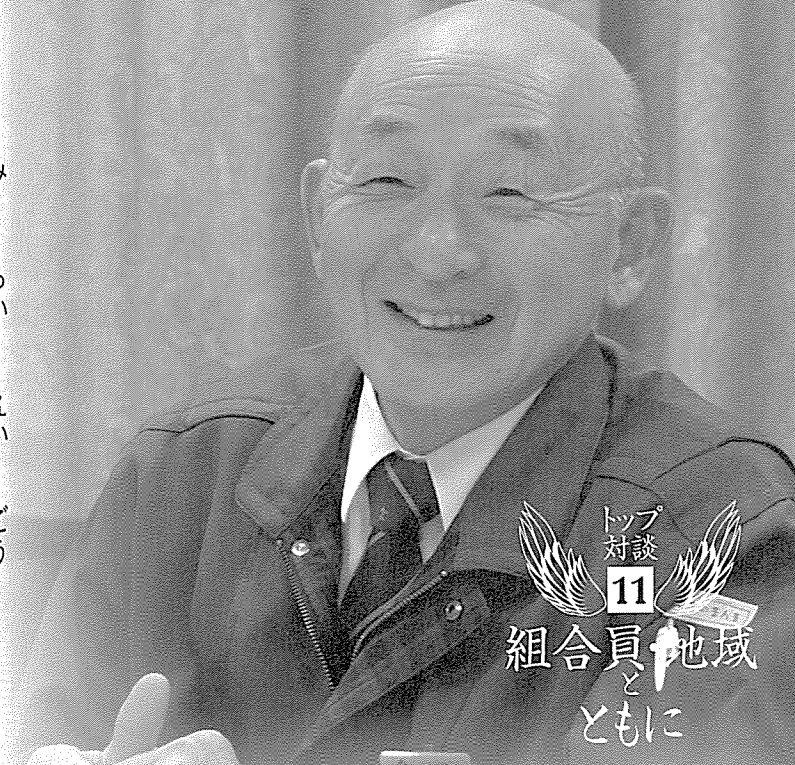


いしだ・まさあき
1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、協同組合論。現在、日本協同組合学会会長。三重大学教授を経て、2015年4月より龍谷大学農学部教授。近著に『食農分野で躍動する日欧の社会的企業』(全国共同出版)、『JAの歴史と私たちの役割』(家の光協会)など。

体験がものをいうとのこと。
石田 組合長さん自身は、牛ではなく、カスミノウを生産されていますね。
三角 ええ。東京農大の農業拓殖学科を卒業後、種苗会社に入ったのですが、そこに就職したのも将来は花を作りたいという思いがあったからです。就農は二八歳の時ですが、自分の体力のことを考えて決めました。菊池ではすでに昭和四十七年からカスミノウが導

入られていました。和歌山県に八〇〇本、菊池に一人一〇〇本ずつの七〇〇本の苗が植えられたのが日本での栽培の始まりと聞いています。カスミノウの生育には適温はどれくらいか、日長時間、肥料水分はどれくらいが望ましいかなど、学術的にも確立されていませんでした。ということで青壮年部のなかに花き研究会を四人で発足させ数字を集めました。その数字をもとに、母の日や正月、お彼岸前に出荷するにはどうしたらよい

後継者育成に命をかけて
石田 当時、上村会長は別の農協でしたよね。
三角 会長が菊陽町農協、わたしが菊池市農協です。四人で始めた花き研究会ですが、平成に入ってからぐんぐんと伸びて、最盛期の平成六、七年ころには四〇数名となりました。若い人は皆、花き研究会に入ったものです。
石田 そのころかな、平成六年、



三角 修氏 下

熊本県 JA 菊池 代表理事組合長

石田正昭

龍谷大学農学部教授

「きくちのまんま」は、安心品質を誇る JA 菊池農畜産物統一ブランド。「まんま」は日本語で「ごはん」、イタリア語で「お母さん」を意味する。これを合わせると、「きくちのまんま」は、豊かな大地に育まれた「おふくろの味」というメッセージとなる。

未来永劫「きくちのまんま」



自律創造型職員をつくる

石田 組合長になって一番お感じになったことは何ですか？
三角 全国的に人口が減少するなか、JA 菊池管内では毎年五千人

以上の人口が増加しています。新しい住民の方々はどうやって JA を理解してもらおうか。これを平成二十年、副組合長になったときに

職員同士のコミュニケーションを図る。俗にいう風通しの良い職場づくりを始めました。JA 菊池には約六〇〇名の職員がいますが、五〜一〇人ずつのグループをつくり、小集団活動を始めました。現在、五五グループが活動しています。やることは何でもいいことにしています。

言い方をしています。報告・連絡・相談は当たり前ですが、何事も皆で考え、何でも話し合える環境づくりをしないと。幸いなことに、些細な事でも話ができる前向きの職場に近づいているのかなと思います。そこそそが人が育つ職場ではないでしょうか。

関係づくりのなかで、協同組合とどのようなものか、職場改善はどのように進めるのかを感じてくれるのではないかと考えています。とくに若い職員たちに期待しています。JA 菊池には、実に多彩な人材が育っています。

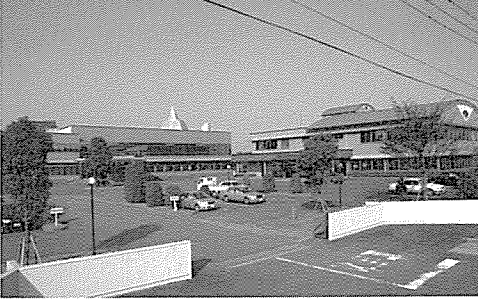
石田 組合員にも、職員にも、そして役員にも、インパクトを与えたいと思います。JA 菊池の風土の中に染み込ませていただいたと思います。

教育に始まり教育に終わる

石田 その場合ですが、若い職員を先輩たちがサポートする関係が良いのか、あるいは何でもフラットに言い合える関係が良いのか、どちらでしょうか？
三角 わたしは言い合える関係のほうが良いと思います。そういう

教育に終わる」という、JA 菊池の基本方針をつくったのが熊本県農協中央会 OB の川崎盤通先生です。先生には、平成三年から二十

層別研修を中心に協同組合論をしっかりとやりいただきました。決めごとが二つあって研修会は、必ず上役から始めること。一回の研修は四〇名以内となっています。研修内容は、一般企業と協同組合の違いや、協同組合の特質など協同組合の基本問題について、職員だけではなく、青壮年部にも解りやすく説明されていました。



JA 菊池 (菊池地域農業協同組合)

組織の概況(平成28年3月末日)

組合員数.....13,511人
 (正組合員7,911人
 准組合員5,600人)

役員数.....38人(うち常勤4人)
 職員数.....600人(うち正職員436人)

地域と農業の概況

菊池地域は熊本県の北東部に位置し、東部・北部は、阿蘇外輪山系を有する中山間地、西部・南部は菊池川、白川流域に広がる台地、平野部となっている。年平均気温は約16度、年平均降雨量は約2,055ミリで比較的温暖であるが、夏は暑く、冬は冷え込みが強い盆地型気候となっている。菊池川流域を中心とする菊池・七城の水田地帯、旭志・泗水を中心に畜産地帯、大津・菊陽における露地野菜、合志・西合志を中心に施設園芸とさまざまな農畜産物を生産している。

JAのデータ(平成28年3月末日)

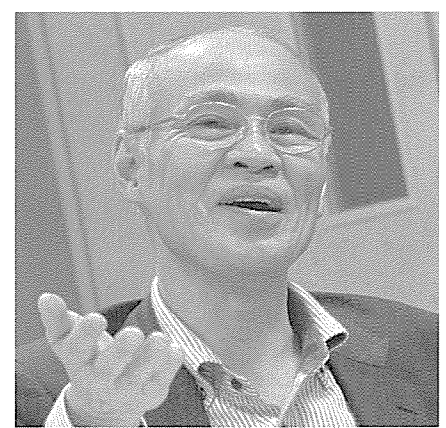
設立 平成元年4月1日
 本所所在地 〒869-1205
 熊本県菊池市旭志川辺1875

出資金.....39億円
 販売品販売額.....278億円
 購買品供給額.....170億円
 貯金残高.....1,181億円
 貸出残高.....442億円
 長期共済保有高.....4,521億円

石田 JA菊池では、自ら共済担当（JA）をやりたいと手を挙げてくる職員がいると聞きました。これは組合員さんと話をするときには保障内容の説明から入るのではなく、組合員さんの話をしっかりと聞くところから始めなければならぬという教育が行き届いている証拠だと思いますね。

三角 そうです。まずは組合員さんの思いをしっかりと聞く、あるいは足を運んでいく。そうすれば数字は後からついてくるようになります。全職員にCI（JA菊池のめざす姿とは何かを明文化した）カードを持たせていますが、そこには統一理念（未来永劫「きくちのまんま」、経営方針（誠心誠意「きくちのまんま」、職員行動基準（基本八原則と行動基準十か条）が記されています。

石田 統一理念の最後には「同じようでも少し温かいね」とか、経営方針の最後には「明るい笑顔心触れ合う」、行動基準の最後に



いしだまさあき 1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、協同組合論。現在、日本協同組合学会会長。三重大学教授を経て、2015年4月より龍谷大学農学部教授。近著に『食農分野で躍動する日欧の社会的企業』（全国共同出版）、『JAの歴史と私たちの役割』（家の光協会）など。

は「爽やか生き活き」と入っています。素晴らしいですね。

三角 各部署で、これを唱和する習慣ができています。全職員が暗記している支所もあります。行動基準十か条をみても、一条一条、奥が深いと思いますよ。

石田 そうですね。奥が深いと同時に、受け取り方は千種万様ではないでしょうか。しかし、何回も

読み上げていくうちに理解の仕方も変わってくると思いますね。

三角 その通りです。川崎先生がよくおっしゃっていましたが、一人一人への刷り込み、つまりかみ砕いて説明し、それを刷り込んでいかないと、いざというときに役

石田 そんなこともあってか、年頭発表の標語に「創」とか「挑」とかを掲げられた？

三角 はい。小集団活動のテーマも今までは完全フリーにしていたのですが、昨年から地域を考えた、あるいは地域と結びつくような活動をしようではないかとの投げかけを始めました。

に立たない。率直に言って、小集団活動の展開によって職員レベルの刷り込みはかなりできたと思います。自律創造型職員も育ってき「よし、次は組合員教育だ！」ということで、今年から組合員教育に挑んでいます。

石田 積極的に対外的PRをしようというわけですね。

三角 そうです。支店協同活動も重要ですが、それ以前に職員一人一人が地域との結びつきを強めていかなければいけない。その意味では組合員・利用者「くらしの活動」の重要性をもっと知ってもらいたい。あるいはこの種の運動を展開するうえで、教育文化活動を最大限に活かしていきたいと考えているところです。

石田 「家活」の全面展開ですね。

三角 『家の光』は女房、わたしは『地上』を読んでいます。『地



みすみおさむ 1953年熊本県菊池市生まれ。東京農業大学卒業後、1975年カネコ種苗(株)に入社、1981年就農、2000年JA菊池花き部会長、2002年同非常勤理事、2008年同代表理事副組合長を経て、2014年同代表理事組合長に就任、現在に至る。2003年東京農業大学経営者賞受賞。

上』は今、欲しい記事がリアルタイムに掲載され、すばらしい雑誌だと思っています。『家の光』も実際に手に取ってしっかりと読んでいくと「おお」と思うところが多くあります。となると、『家の光三誌』は女性だけのものではありません。もっと読者層を広げていかなければならないと考えています。そんなこともあって、昨年から組合員教育の一環として青壮年部主催の「チャレコン」を始めました。正式名称は「チャレンジ事業コンペティション大会」です。

石田 なるほど。

三角 それには「これから先、農業をどうしよう、こうしよう」という議論をしていかなければならない。その発表会を開かせてもらえないかというのです。そういう

菊池の団結心は民主的運営から
三角組合長との対談で強く感じたのはJAのみならず、この地域全体の団結心が高いこと。組合長によると、これには中世・南北朝時代に頭角を現し、九州一円を治めるまでに勢力を伸ばした菊池一族が関係しているという。その13代・武重が一族結束のために定めた三か条「寄合衆内談の事」には、「一族の方針は寄合衆と呼ばれる有力者が合議して決定し、その決定には当主といえども従うこと」と記されており、武重以下の血判も押されている。これは今日の議会制民主主義の考え方を表しており、明治維新の「五箇条の御誓文」に影響を与えたとされ、またその精神は明治憲法や現在の憲法にも反映されているという。菊池一族が残した教育重視の姿勢や民主的運営の精神は今も菊池地域に生きている。(石田正昭)

石田 積極的な取り組み、高く評価できますね。では最後に、今後のJA組織の育成について抱負をお聞かせください。

三角 JA組織の岩盤を強く厚みのあるものにしたいですね。子どもを世の中に送り出すのに、長い時間と多くのお金を必要とするように、JAの組織育成にもたくさ

人の時間とお金が必要です。毎年、青壮年部には五百万円、女性部には一千万円以上の助成を行っています。わたしは組合を預かる者として、人が育つ職場環境、組織環境を作ることが責務だと考えています。

石田 JA菊池の統一理念である、未来永劫「きくちのまんま」であり続けられるように、百年先を見据えた人づくりを行っていききたいと思っています。(終・取材 平成二十八年十二月二十七日)